教育委員会資料
令和７年８月 27 日
済美教育センター

令和７年度 学力等調査の結果について

令和７年度に実施された全国学力・学習状況調査（文部科学省）について、杉並区立小・中学校の結果を報告いたします。

１　令和７年度　全国学力・学習状況調査（文部科学省）

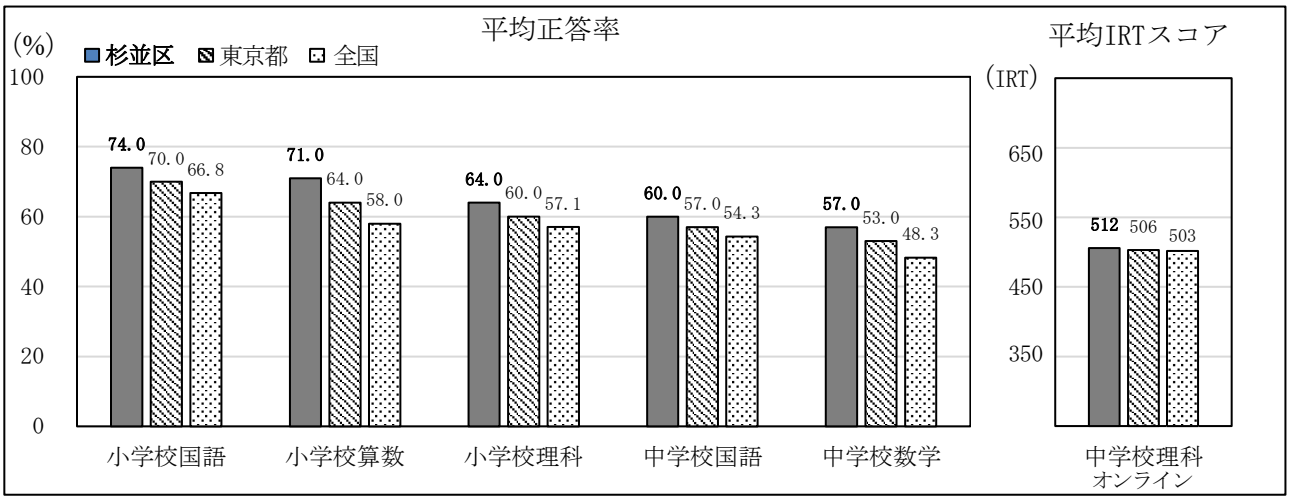
目的	児童・生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図るとともに、学校における学習指導の充実や改善等に役立てる。
対象	公立、国立、私立小学校第６学年、中学校第３学年
調査内容	①教科に関する調査 小学校：国語、算数、理科（冊子を用いた筆記方式） 中学校：国語、数学（冊子を用いた筆記方式）、理科（ICT 端末を用いたオンライン方式）※ ②質問調査（ICT 端末を用いたオンライン方式）
調査日	小学校：令和７年４月 17 日（木）（質問調査は４月 18 日(金)～４月 30 日(水)の間で実施。） 中学校：令和７年４月 17 日（木）（理科と質問調査は４月 14 日(月)～４月 17 日(木)の間で実施。）

※　中学校理科（ICT 端末を用いたオンライン方式）

中学校理科（ICT 端末を用いたオンライン方式）において、IRT（項目反応理論）を導入。難易度の高い問題に正答していると高めに、難易度の低い問題に誤答していると低めに学力スコアが算出される。異なる問題から構成される調査の結果を、同じ尺度で比較することができる。そのため、各児童・生徒が異なる問題を解くこととなり、今まで以上に多くの問題を使用し、幅広い領域・内容等での調査が可能。また、学力の経年変化を把握することができる。

２　教科に関する調査結果

全ての教科における平均正答率と中学校理科の平均 IRT スコア※において、東京都や全国よりも高い数値を示した。問題の内容を、「知識及び技能」「思考力、判断力、表現力等」の観点別にした場合においても、東京都や全国よりも高い数値を示した。



※IRT スコア

IRT（項目反応理論）に基づいて各設問の正誤パターンの状況から学力を推定し、500 を基準にした得点で表すもの。

３　質問調査に関する調査結果

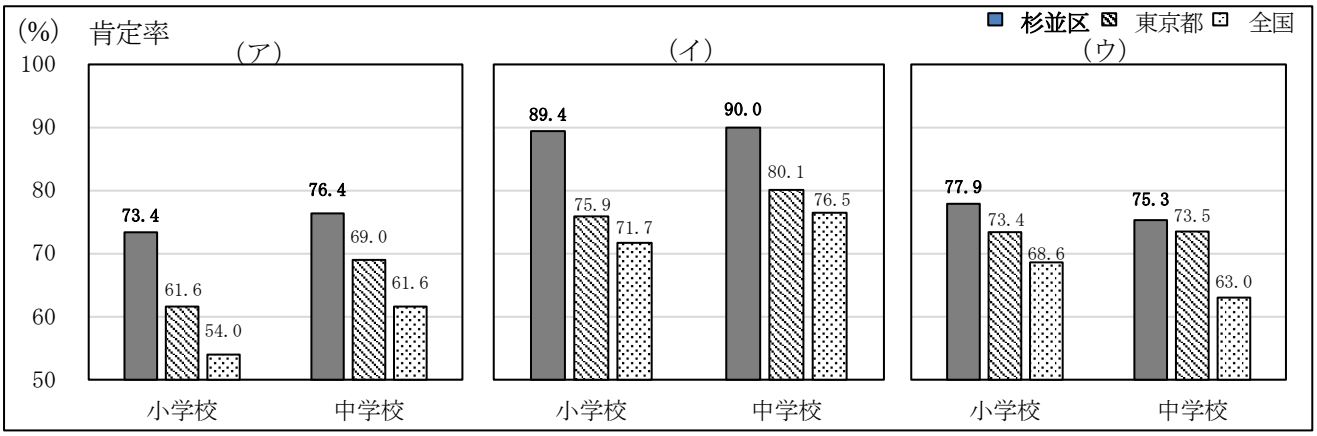
家庭学習や ICT 機器の活用、表現の工夫などの項目が東京都や全国よりも高い数値を示した。他者とのかかわりや、自己有用感に関連する項目が、東京都や全国よりも低い数値を示した。

（１）杉並区の割合が東京都や全国よりも高い数値を示した項目

（ア）学校の授業時間以外に、普段(月曜日から金曜日)、１日当たり１時間以上勉強する。(学習塾で勉強している時間や家庭教師の先生に教わっている時間、インターネットを活用して学ぶ時間も含む)

（イ）これまでに受けた授業で、PC・タブレットなどの ICT 機器をほぼ毎日・週３日以上使用する。

（ウ）これまでに受けた授業で、自分の考えを発表する機会では、自分の考えがうまく伝わるよう、資料や文章、話の組立てなどを工夫して発表していましたか。

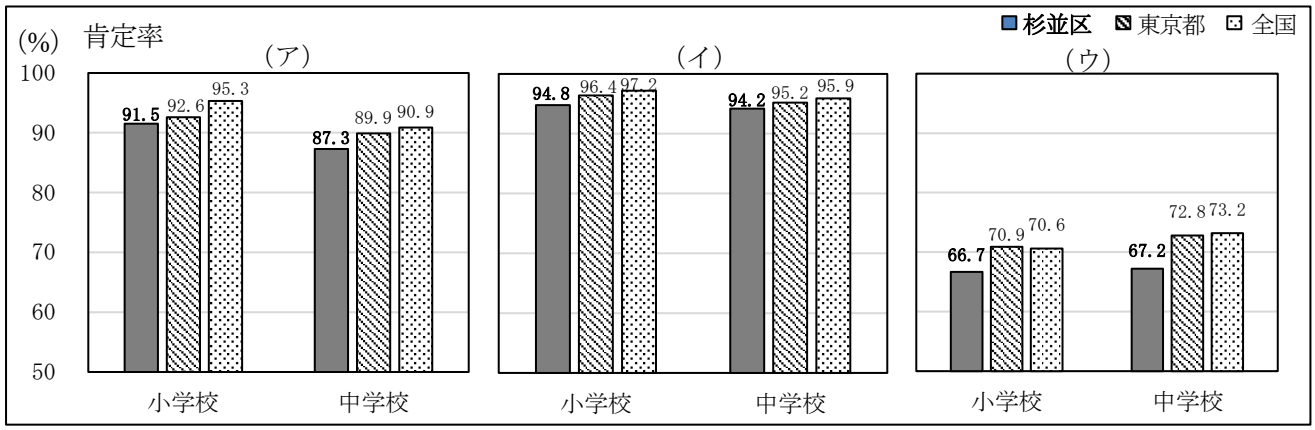


（２）杉並区の割合が東京都や全国よりも低い数値を示した項目

（ア）人が困っているときは、進んで助けていますか。

（イ）いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思いますか。

（ウ）困りごとや不安がある時に、先生や学校にいる大人にいつでも相談できますか。



４　今後の取組

（１）全ての教科における平均正答率と中学校理科の平均 IRT スコア※において、東京都や全国よりも高い数値を示したことから、これまでの取組が一定の効果をあげていることがうかがえる。よって今後は、ICT 機器の効果的な活用や、地域と連携した学び、体験活動の充実など、児童・生徒の主体的・対話的で深い学びの実現に向けた取組をより一層充実させ、さらに児童・生徒の資質・能力を伸ばしていく。

（２）質問調査に関する調査結果では、家庭学習や ICT 機器の活用の定着、自分の考えを表現する力の高まりが見られた。一方、他者とのかかわりや、自己有用感に関連する項目に課題が見られたことから、教育委員会においては、児童・生徒が他者とのかかわりについてより深く考えることができるよう道徳教育を充実させる。特に道徳教育の要である道徳科の指導については、年次研修や校内研修等を通してさらなる充実を図っていく。また、各校が教育活動全体を通して、他者とかかわり、協力して取り組む体験活動の充実を図ることができるよう学校へ指導・助言を行う。